

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)	良くなる やや良くなる	家電量販店（従業員）	・新学期に向けて新生活用の家電購入が増える。
		商店街（代表者）	・現在よりもより年度末に関する案件が増えてくると予想される。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・花屋の景気は大体春から良くなるので期待したい。
		百貨店（営業担当）	・低金利対策として百貨店の友の会が大きく取り上げられ、1月から募集開始の「春のコース」の新規入会数が増加し1年後の好材料となる。同時に、3月1日の「春のコース」満会とお買物券交換開始で、来店客数と関連大型催事による来店頻度の高まりが期待できる。また、友の会との相互募集強化で自社クレジットカード募集も13か月連続で目標達成している。両会員の増加で友の会・クレジット関連催事の底上げとリニューアル効果期待できる。
		百貨店（企画）	・駅ビル開業から一回りし、その反動増が見込まれる。
		百貨店（店舗事業計画部）	・ゴールデンウィークにかけては新生活や母の日などの需要が多く、人の移動も多くなるので来客、売上とも期待できる。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・4月のたばこの一部値上げに伴い、客のプラス1品買いが増えると予想する。
		家電量販店（店員）	・暖冬ということもあって、非常にこの冬は悪かったというのが現状である。悪いときには必ずその反動があるので、3か月後は若干プラスの動きがあると考えている。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・2月は寒かった気候の影響もあり、客の入りが若干少なかった。これから春先にかけては、来店頻度が上がるので、売上は増加する傾向にある。また気温が暖かくなると客の購買意欲も上がるので、今後2～3か月先の売上は期待できる。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・3～4月の異動シーズン及び春の行楽シーズンへ向けては、1～2月の販売量の良さが引き続き保たれる。
	高級レストラン（専務）	・3月に入るとやはり歓送迎会や入学祝い、卒業祝いなどいろんな集まりがあり、気候も暖かくなるので大分良くなると期待している。	
	高級レストラン（支配人）	・歓送迎会の季節となり、ある程度の予約が見込める。	
	旅行代理店（企画）	・テロ問題等で海外需要が低迷していたが、徐々に良くなってきている。	
	タクシー運転手	・大型イベントも目白押しで、週末のホテル予約が難しい状態が続いており、観光客の増加も重なって、当地においてはある程度の景気の向上は見込める。	
	タクシー運転手 理容室（経営者）	・今年は例年と違い、人の動きがそれぞれになっている。	
	美容室（経営者）	・2～3か月先は、業種的に卒業、入学など春に向かって多少良くなる可能性がある。当地では豪華客船等による中国からの客も多いが、関係のない業種はあまり良くないので、全体的には冷えてきているようだ。	
	美容室（店長）	・2～3か月先の春先になると人が動く時期で、おしゃれをするシーズンになるのでだんだん景気は上がってくる。	
	住宅販売会社（従業員）	・消費税増税前であることと、マイナス金利の影響による住宅ローン金利引き下げ等が住宅計画の後押しをしている。	
	変わらない	商店街（代表者）	・なかなか景気に回復の兆しはみられず、低迷している。町内は若干空き店舗が増えて、埋まらない。
		商店街（代表者）	・何とも将来の見通しはつかない。
商店街（代表者）		・地方では消費を刺激するような背景は全く見当たらない。	
商店街（代表者）		・3～4月は商店街の繁忙期に入るため若干景気が上向くが、大きく期待できない。今のまま若干悪い状況が続く。	
商店街（代表者）		・商店街では、生活必需品を取扱っている店舗はそれなりに売上確保ができる。しかし、ファッション関係の店は苦戦が続いている。	
商店街（代表者）		・季節的に春めいてきたので、幾分良くなると期待している。	
一般小売店〔青果〕（店長）		・寒さも緩んで野菜、果物の生産量も増えていくが、消費者の購買心を高めるようなプラス材料がないので、横ばいが続く。	
一般小売店〔鮮魚〕（店員）		・なかなか景気の良い話を聞かない。誰に聞いても売行きが悪いという話ばかりである。ただし、売れる店はそんな話はしていない。話をするのは売行きの悪い店ばかりである。	

一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・年間を通して一番売上が伸びる月であるが、景気次第でもっと期待できる。
百貨店（営業担当）	・抜本的な変化はみられない。
百貨店（経営企画担当）	・消費税増税、例年になく気候変動等の影響により、地方の個人消費は低迷している。上位顧客層の下支えにより若干の回復基調ではあるものの、売上の半数のシェアを占める中間層については、来年の再増税によりますます消費マインドは低下するのではないかと見込んでいる。
百貨店（営業統括）	・景気回復の材料に乏しく、生活環境を含めて、先行きに対する不安要素が非常に大きい。
百貨店（売場担当）	・当店で婦人服及び紳士服の全体の売上シェアが高いので、売上が上がってこない状態である。食品、特に菓子は好調であり、その辺がけん引して流れが変わってくると、若干上がってくる。入店客数は1月は前年比95%となったが、それ以外は8月以降100%を超えている。競合店については、新店舗オープンや地下リニューアルでおそらく数字が上がってくる。
スーパー（経営者）	・日本だけの状況ではなく、世界的な状況などで変わってきているので難しい。
スーパー（店長）	・大体通常の販売量の動きが目立って良くなっていない。
スーパー（店長）	・雇用状況は相変わらずあまり良くなく、競合店の出店等もあり、今後価格競争を含めた競争が厳しくなることが予想される。
スーパー（店長）	・来店客数があまり変わらず、買上点数が少し落ちている。
スーパー（総務担当）	・売上は、前年を上回ってここ数か月推移しているが、伸び率は若干下降気味となっている。
コンビニ（販売促進担当）	・現在、重点的に販売をすすめている中価格帯の製品が、時間はかかっているが、徐々に市場で受け入れられていて、今後その流れは続く。
衣料品専門店（店長）	・入学や就職などのシーズンでもあるが、世の中の動きが落ち着いているようで、あまり景気の動きはない。
衣料品専門店（店長）	・間もなく3月を迎えるが相変わらず寒い日が続き、客の出足が悪い。
衣料品専門店（店員）	・自店だけでなく他の店も衣料は値上がりしている。顧客の収入は変わらないので購入しづらくなっていく。
衣料品専門店（チーフ）	・来客数の単価、まとめ買いとも落ち着きをみせている。2～3か月後はクールビズも始まるため単価が減少する。
衣料品専門店（取締役）	・季節が暖かくなり、春物、夏物の商品が動くが、冬物に比べて単価が低いので、その辺の需要がどのくらい取り込めるかというところである。特に景気が良くなる材料が見当たらず、不透明である。
家電量販店（総務担当）	・目玉になる商品がなく、需要の掘り起こしに苦労している。
家電量販店（広報・IR担当）	・大きな変化は期待できない。春商戦で多少の動きはあるだろうが、現状維持を見込む。
住関連専門店（経営者）	・都市部では売出しは順調であるが、地方では景気回復感はなく、株価の乱調など先行き不透明である。
ドラッグストア（部長）	・販売量の状況として、現状は高すぎず低すぎずといった感覚を持っている。目先は円高・株安傾向であるが、影響が出てくるのはもう少し先になると考えている。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油のうち自動車燃料油については、ここ数年のなかで最安値となっており、春の行楽シーズンに自動車による当地観光の行楽客増加に期待したい。ただ、燃費が向上した自動車が増加しており、販売量の増加はあまり期待できない。洗車等の自動車のカーケア商品の販売増加に期待したい。
その他専門店〔書籍〕（代表）	・アベノミクス、日本銀行の政策の失敗がメディアでも報道されるようになって、年金への不安、消費税増税への備えなどから内需が良くなる兆しがみえない。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・良くなると期待していたが、日経平均15000円割れ、中国株下落、原油安、円高等が一般顧客の不安要因になっている。
その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	・好転する要素はあまりなく、良くなるという期待感も薄い。円相場の変動や中国を始めとするアジアの新興国の景況次第によっては影響される業種もあるだろうが、小売に直接的な影響は、すぐには表れない。

高級レストラン（経営者）	・3月の予約状況を見ると今のところまだ少ない。ちょうどこの時期、3月末から4月にかけては歓送迎会、特に送別会等が多い時期であるが、今のところあまり大きい予約も入っていない。1～2月同様、売上が過去よりも上がるように予約が入ってくることを期待しているが、今のところ良くなるのか悪くなるのか、どちらとも言えない。
一般レストラン（経営者）	・前年よりは微妙に良いが、一時的なものである。
一般レストラン（スタッフ）	・いくら頑張っても税金を支払うばかりで良くならない。良い政策がない。
スナック（経営者）	・年明けから1～2月と不振月が2か月続いた。今までにない傾向で、市場全体が冷え込んでいる。
観光ホテル（総務）	・3か月収入予測より変わらない。
都市型ホテル（販売担当）	・3～4月とあまり高い売上は予想していないので、前年とあまり変わらない。
都市型ホテル（副支配人）	・例年4～6月は1年間を通じて一番売上が少ない時期ではあるが、前年以上に5月までの入込は堅調に伸びている。
旅行代理店（従業員）	・海外からのインバウンド需要が好調なため、アウトバウンドの航空座席が取りづらくなっている。
タクシー運転手	・予約状況は大変良いが、地元客の利用が大変少なく、一時的な予約状況である。
通信会社（企画担当）	・次年度予算の相談が一巡し、想定される事業に現在変更はない。
通信会社（営業）	・春商戦が終了した後は連休の多い5月に入るため、毎年同時期は販売量が落ち込む。
ゴルフ場（従業員）	・今頃から大体ゴールデンウィークの予約が動き始めるが、それが鈍っている。当地では雪の被害で農産業が厳しく、また建設業が年度末でもありなかなか地元のコンベが入らない状況である。これからはいろんな策を練らないと前年を上回ることはできないと少し不安を持っている。
競輪場（職員）	・前年度比で売上に変化がなく、身の回りの景気は変わらないと見込まれる。
競馬場（職員）	・傾向が変わるであろう特段の理由が見つからない。
その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・顧客確保に必要な介護人材の確保が進まず、介護報酬マイナス改定の影響を吸収できない状況が継続している。
設計事務所（所長）	・ほとんど仕事の量としては増えておらず、飛び飛びで仕事がある状態で、今の状態が続いていく。
設計事務所（代表）	・良い材料が少ない。
住宅販売会社（従業員）	・市中心部ではマンションの着工もなされており、開発も進んでいるが、景気を底上げするような業種の状況がどうなのか、貸付金の金利の問題もどうなるのか、それにより景気の動向がどう上下するか、わからない。株価の動きが乱高下しているため、その今後の落ち着きで景気が変わってくる。
住宅販売会社（代表）	・今後、明るい材料はあまりないが、消費税増税に伴う駆け込み需要があるのではないかと考えている。ただ、駆け込み需要がないまま増税してしまうと、落ち込みだけくるのではないかと懸念している。
やや悪くなる	
商店街（代表者）	・当店の客は年金受給者が多い。預貯金は多分持っているが、金利が下がるということで、自分の将来を考えて買物に対する態度は非常に厳しくなる。今月も安くなれば買う、自分が買える範囲であれば買うという状況だったことから、金利が下がればもっと厳しくなる可能性は高い。
百貨店（総務担当）	・明るい材料が見当たらず、消費マインドの改善が期待できない。
百貨店（業務担当）	・株価の話をしたり、将来の不安を話す客が多い。春物の新作が入荷してきたので案内をすると、もう少し暖かくなってからでいいとの返答である。必要な時に必要なモノだけ買う客が多い。
スーパー（店長）	・依然として、衣料品、暮らしの品の消費動向は改善が厳しい。
スーパー（店長）	・競合店のドラッグストアができたので、酒、また一般食品を中心に影響が出ている。全体的には前年比3%減となっている。衣料品は、暖冬で春物衣料も心配しているが、冬物衣料がやっと消化できる状況であり、夏物に期待している。天候で衣料品はかなり左右されている。全体では前年の98%ぐらいで推移すると予想している。
スーパー（経理担当）	・現在の好調は天候によるもの、消費税増税後の裏返しによるところが大きく、今後、春以降は、その他の要因は考えられない。

		スーパー（統括者）	・現状では中国の景気や米国の状況から日本への悪影響が懸念され、景気が落ち込むのではないかと考える。
		コンビニ（エリア担当）	・今後、給与が上がっていく傾向は全くみられないことと、客の動きとして必要なものしか買わないことの影響が大きい。
		衣料品専門店（総務担当）	・当地においては賃上げやその他の経済状況の改善がそれほど期待できず、人口も減少している。さらに年が明けてからの株価の低迷も含み、景気が良くなる要素が全く見当たらない。むしろ悪くなる方向になっている。
		家電量販店（店員）	・日本銀行のマイナス金利ということでも消費は全く増えておらず、少し混乱しているようだ。パソコンは海外からの部品が多く、円安の影響で前年より非常に高くなっており、良くない。高額な商品が売れない状況が続いている。ずっとこの状態が続くので、売上が悪くなるのではと心配している。
		乗用車販売店（総務担当）	・4月になると年度末商戦が終わり、一服感が広がる。受注台数は伸びない。
		その他専門店〔書籍〕（副店長）	・駅に新規オープンする商業施設の影響で人の流れが変わる。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・景気悪化の影響がこれから先みられるのではないかと不安がある。
		タクシー運転手	・今のところ、株の不安定な動きがあるので、消費者は心理的にかなり悪い状況である。それと政府が補正予算も出さず、何らかの景気対策もするような状況ではないので、景気は悪くなる。
		通信会社（営業担当）	・年度の切替わりで顧客が動く。
		美容室（経営者）	・5～6月はイベントも何もなく、パーマをかける必要がないので、売上はやや悪くなる見込みである。
		サービスの動向を把握できる者	・円高、株安、中国の動向、アメリカ大統領選挙による影響がある。
	悪くなる	百貨店（営業担当）	・今の経済状況そのものが、将来的にどう変わるのかわからないことに対する消費者の不安がある。マイナス金利だから物にいくという単純なものではなく、消費については様子見の状況である。今後それが更に強くなり停滞していく。
		コンビニ（店長）	・マイナス金利の影響が悪いほうに出る。
		音楽教室（管理担当）	・学習塾を決めたあとに、習い事を決める傾向にあるので、ここ数か月は悪い。
企業 動向 関連 (九州)	良くなる	-	-
	やや良くなる	農林水産業（経営者）	・3～4月は行楽シーズンや異動時期で、スーパー、居酒屋関連も少しは盛り返してくる。スーパー関連も相変わらず加工品を中心に引き合いは出てくるとみている。ただ今年の後半、予想される円高等による輸入増や国内生産増からくる価格圧迫が心配される。
		食料品製造業（経営者）	・いろんな業種の人たちが試行錯誤で行動しているようだ。何か将来実になることが出てくるかもしれない。
		繊維工業（営業担当）	・工場は増えることはない。今、取引先も生産現場を見直すところにきているが、対応が遅いぐらいだ。
		家具製造業（従業員）	・国内での商業施設の計画も一時のオリンピック需要を見込んだ投資案件が落ち着いた。ただ、ホテル案件は非常に増えており、海外の主要な家具の生産工場は、どれも日本向けの生産で2～3年は忙しいとのことである。当社もホテル物件での家具需要が増えた。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・民間及び自治体ともに年度締めに向けた受注が見込まれる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・ユーザーもいろいろ考えた動きをしていると同時に、世界経済が悪いとは言いながらもやはり多少の動きはある。物により差が出るとは考えられる。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・各種イベントを開催する取引先が増えてきており、企業の投資意欲がおう盛である。
		その他サービス業〔物産リース〕（支社長）	・民間企業は資金調達がしやすい環境である。取引先の次年度設備投資計画は前年よりも多い。3月決算企業は良い数字の会社が多い。
	変わらない	農林水産業（営業）	・若干の下り基調が続くと予想される。
		化学工業（総務担当）	・当工場の製品は景気の影響をあまり受けない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・今月は特に特注関係もあり売上が良かったが、4～5月に開催されるイベントの動向次第では前年程度は見込まれる。それ以上のことはなかなか難しい。

鉄鋼業（経営者）	・受注量が大幅に増加する時期がきたり、その反動で大幅減に転じたりで、受注量、販売量ともに不安定な状態である。このような状態を繰り返すため販売価格も上昇に転じることができず、低迷している。	
一般機械器具製造業（経営者）	・客の声等を聞いてもあまり期待できるものはない。ただ、先日のある商談会では自動車業界にはまだ動きがあるとのことだ。これから営業を展開する予定ではあるがここ2～3か月で事業が急展開することはないと判断する。	
電気機械器具製造業（経営者）	・現在は変わらない現状を期待している。そこで利益を出し、品質を良くしていくには、社員教育、あるいは現場内での構造改善などで積極的に力をつけ、内部で生産性を上げる方向に進めることだと考えて、取り組んでいる。	
精密機械器具製造業（従業員）	・中国経済の影響か、受注先からの委託製品が激減している。これから先、良くなるのか悪くなるのか、まだまだ見通しが見つからない状況にある。	
輸送用機械器具製造業（営業担当）	・工場火災による操業停止分のばん回生産が行われるため生産量は増加するが、通年では増産ではない。	
輸送業（従業員）	・これから先行きが良くなる状況はあまりない。ただガソリンが安くなっているの、運送会社からの値上げ要請はなく、会社としてはなんとか助かる状況であるが、物の荷動きとしては良くない状況が続いている。	
輸送業（総務）	・客の情報や現場をみると、良くなる材料があまり見当たらない状況である。	
通信業（職員）	・自社全体では受注額が目標値を超えており、当面は堅調に推移すると予想される。	
金融業（従業員）	・製造業中心に設備投資が増加している。また、新規求人も増加傾向を示しているなど、雇用、所得環境が改善している。一方、中国経済や新興国経済の減速などから、先行き慎重な見方が増加してきている。	
金融業（調査担当）	・不動産に対する資金ニーズが堅調に推移しており、変化はない。	
金融業（営業担当）	・取引先顧客は、3月の株価及び為替の動きに注目しており、動向により前向きに動くか現状維持かを見極める様子がかうかがえる。	
金融業（得意先担当）	・日本銀行の金融政策に対する連日の報道を受け、法人、個人の客ともに既存の借入金の見直しの要望が多くなってきている。そういう状況下でいくと、金融機関間の競争はますます激化することが予想され、前向きな設備投資の資金ニーズがない厳しいなかで、当面現状維持すると予想する。	
不動産業（従業員）	・賃貸物件の入居率が横ばいに推移している。	
新聞社（広告）（担当者）	・博多駅周辺の再開発や自治体の地方創生関連の新年度予算などの材料があるが、どこまで新聞広告に結び付けられるかは不明で、しばらくは現状維持が続く。	
経営コンサルタント	・コンサルタント業の特徴かもしれないが、有名な実績のあるコンサルタントに仕事が集中している。	
経営コンサルタント（代表取締役）	・消費税増税が1年後に決まったこともあるが、これだけ厳しい状況が続いているなかで、増税を行った場合、どの程度消費者に対して影響が出てくるのかが非常に不安である。おそらくこのまま続くとかなり厳しい状況に追い込まれることは間違いない。したがって、よほどのプラスになる材料が出てこない限りは、ますます悪くなる。	
経営コンサルタント（社員）	・高級酒の売上に回復がみられない。安く売っても消費者は慎重になっている。	
その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・平成27年度業務で、地方創生関連で国から市町村に対して、交付金が抛出されると聞いているが、コンサルタントに発注するような業務は、現時点では少なく、入札なども少ないことから、景気は変わらないと考えられる。	
やや悪くなる	金属製品製造業（事業統括）	・例年、この時期になると受注量も増加するが、受注量が伸びていない。受注が売上になるまでは約半年ほどかかるため、受注量の減少により売上も減少傾向となる。
電気機械器具製造業（取締役）	・新興国経済の不振、スマートフォンの販売が先行き不調のためやや悪くなる。	
その他製造業（産業廃物処理業）	・需要、供給ともに落ち込み、為替も円高となっており、先行き良い情報はどこにもない。	
建設業（経営者）	・円高、株安で景気の先行きが悪くなりそうだ。	
建設業（従業員）	・金融情勢の不安定さで設備投資をする企業や個人などが少なく、見積案件も停滞している。	
輸送業（総務担当）	・人件費高騰が経営に大きな影響を与えている。荷主に対し値上げを要請したために、他社に逃げられた案件も発生しており、売上減、利益減は避けられない。	

		金融業（従業員）	・2月の当地については、スポーツキャンプで宿泊客が増加して経済的には上向きなるが、今後そういったイベントはないため、毎年のことながら反動で悪くなる。
		金融業（営業）	・中国発の世界的な需要の低迷は、長期化する可能性もある。加えてマイナス金利により金融市場は大きく変動しており、落ち着くまでは投資も控える傾向にある。そのため、今よりも悪くなる可能性もある。
		広告代理店（従業員）	・今月の新聞折込枚数は前年同月比96%と前年に届かない。3か月前の実績からも悪くなっている。また、ローン金利低下、ガソリン代の低価格、電力自由化による電気代の低下などで家計費は軽減されても、その分が消費活動に向かうところまではいっていない。
	悪くなる	建設業（社員）	・例年では繰越工事の見積依頼があるが、今年はほとんどない。公共工事も平成28年は減少し、早期の発注は期待できそうにない。災害関連の工事は補正がついているが、少額である。ゼロ市債、県債、国債の発注を期待している。
雇用 関連 (九州)	良くなる やや良くなる	-	-
		新聞社〔求人広告〕 （担当者）	・春先に向け、観光シーズンも控え、福岡は外国人観光客含め人の動きも活発になり、求人も増えてくる。消費は伸びてくる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・現在の求人数は年度末特需であるが、年度末に入る前から求人オーダーは一定量ある。
		人材派遣会社（社員）	・新年もスタートしている時期なので、多くの需要は見込めない。4月からの新規の注文もほとんどない。
		人材派遣会社（社員）	・業界的には業務量増加による派遣の需要の動きが少しみえつつあるが、景気が良くなるほどの動きはない。
		人材派遣会社（社員）	・新卒の入社が4月で、さらにすぐに次年度の新卒採用が始まるため、中途採用は当面落ち着く見通しである。
		求人情報誌製作会社 （編集者）	・地元企業に頑張ってもらいたいという期待感である。
		職業安定所（職員）	・3月末は求職者が1年間で最も多い時期となるため、例年求人倍率は下がる傾向にある。
		職業安定所（職員）	・今後も新規求人の増加が見込まれる。月間有効求人倍率が8～12月の5か月連続で1倍を超えている。
		職業安定所（職業紹介）	・有効求人倍率及び正社員求人倍率の前年比での高い状態は今後も続くが、大幅な増加とまではならない。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・この時期は特に景気動向を判断できる材料が乏しいが、今後企業からの求人数を注視しながら判断する必要がある。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・求人の動きは、今までどおり、堅調に推移することが予測される。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・活発的な採用の動きなく、退職者の穴埋めぐらいの求人になる。
		職業安定所（職員）	・日本銀行のマイナス金利政策等が、株価や為替を始めとする日本経済に悪影響を与える恐れがあるとするマスコミ報道等により、企業マインドに不安感を与え、ひいては求人の手控えにつながり、労働市場を冷え込ませる懸念がある。
	悪くなる	-	-